

2011年度

科目名	ことばの科学B				
担当教員	溝口 健司				
配当	文 2・教育2・人間2			コード	53030
開期	後期	講時	金曜日3限	単位数	2
授業テーマ	言語の本質を探る。				
目的と概要	生物において発生する経済性の観点から言語の本質を探る。言語は生物的認識の産物であり、その認識は宇宙におけるひとつの現象として根源的には物理法則に支配されている。宇宙誕生以来の組織化の結果として発生した生物が進化する過程のなかで、言語は情報を受け取り、状況を操作する道具として経済性にすみずみまで支配されている。この授業では、生物における自己保存性向と言語における経済現象の関連を確認する。				
成績評価法	学期末の不定期試験(80%)、および質疑応答などにおける発言の質・量(20%)によって評価する。				
テキスト	使用しない。				
参考書	宇宙・エントロピー・組織化 / H. Reeves / 国文社 ユーザーイリュージョン 意識という幻想 / T. Nørrretranders / 紀伊國屋書店 つながる脳 / 藤井直敬 / NTT出版				
履修に当たっ ての注意・助言 /準備学習	「ことばの科学A」を履修していることが望ましい。 講義が中心になるが、鵜呑みにせずに自分でよく考え、積極的に質問・意見を述べることが大切。				
講義計画					
1. 生物の目的：自己拡大 2. 快と不快：認識システムの解釈 3. 意味・価値・目的と経済性 4. 道具と経済性：道具としての精神・身体・情況 5. なぜ表現するのか？しないのか？ 6. 意識的認識と無意識認識：言語に意識は必要か？ 7. 言語の本質とはなにか？ 8. 有縁性と恣意性：ソーシャル批判 9. ゲシュタルトの構成と崩壊：無生物と生物の連続性 10. 比喩の構造 11. 駄洒落の構造 12. 芸術の駄洒落性あるいは駄洒落の芸術性 13. 進化・生存と駄洒落：コピーとミスコピー 14. 反復の原理と解釈 15. 総括					